

○小関勝助委員長 次に順位4番、議席番号7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 通告に従って、市長並びに担当課長に答弁を求めていきたいと思っております。大分お互いに疲れておるわけでごさいます、眠気を覚ますような質問をしたいなと思っておりますけれども、質問者の能力を考えるとそうも行かないのかなと、そんなふうに今思っております。

施政方針を聞いた中で今回は質問したいなと思っておりますけれども、その中で私は目黒市長の施政方針は7回目になるのかなと、そんなふうに思いますが、ことしほど穏やかな、そしておとなしい施政方針はないなと、そんなふうに思います。それをどう評価するかということは別でありますけれども、まして就任当時はハード事業、ソフト事業という言葉が頻繁に出てきた記憶があります。そのことが今回は一切整理をされたというようなことで、非常にバランスがとれるような財政運営、そして事業計画というものができるようになったあかしではないのかなと、そんなように今感じているわけでごさいます。

そうした中で、一番最初に施政方針の中で道照寺平コミュニティセンターという言葉が出てきたわけで、スキー場が残念ながら土砂崩れでできなかつた、しかしながら通年型のコミュニティの拠点にしていきたいというような言葉が使われております。コミュニティの拠点にしていきたいということであるならば、当然市としては構想があつてしかるべきなのではないかなと、私はそう思いましたので、市長は時あるごとによく平野に来たときのあいさつの中で、道照寺平は花の公園にしていきたいというようなことを申されておりましたし、そのことも含んでのことかなというふうな認識

を今持っているわけで、その点についてまづお聞きをしたいと思っております。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 通年型のコミュニティの拠点という、私のやはり思いはもちろん冬はスキー場ですが、夏もやはりキャンプとかさまざまな体験学習の場になればいいなと。さらに桜を植えたいと思っております。植えられるところに。平成17年にヤマザワさんなんかを中心に10本だかもらったのかな、それから今度「ようざんろ一ど」の皆さんからも20数本植えていただけるということですから、春はやはり桜が、これ雪にも強いわけですし、見られるようになるというかなと。

それから定点観測所ということで、上っていく道路をつくっていただきました。ダム周辺環境整備で。そこにその整備として花畑とか、そういうのもできないのかなというふうに私は思っております、私の部屋においでいただければわかるのですが、あそこのきれいな絵をかいていただいたのがあつて、あれほどにはならなくても、ああいう感じで整備ができれば、通年型のコミュニティセンターの拠点といつても恥ずかしくないのではないかな。ぜひやはりそういった整備をしてみたいなというふうに今思っているところです。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 私も非常に立派な構想だと思っております。そして楽しく感じるようなものであると思っておりますし、ただそれにつけても去年あたりからそういう構想が市長はあつたと思っております。この構想をやはり実現させていかなければならないわけで、企画をしていくと、そういう作業をどういう段階でやっていただけるのか、その点についてもお聞きしたいと思っております。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 これは市としてはまず平野の地域の皆さんの公民館を中心に、要望活動等があつて、登山道をつくり、それから奥の院は少し民間の皆さんできれいにしたり、それから散策道路あるいはつり橋をかけるとか、いろいろな構想を、これはどこでまとめるというよりぐんぐんあちこちで動いていって、しかも今谷田所長を中心に非常に機動的ですから、あとという間にできるという場合があるのですよね。

これはある意味でいいことなのかなと、計画ばかりつくって、なかなか時間がかかるというよりはいいことなのかなと思いますが、どうもしかし逆に言うと非常に散発的、ばらばらというような感じもするわけで、ここはやはり周辺環境整備については委員会があるわけですから、委員会等もう一度、ここまでできたと、だからこれからどういうふうにやろうかというようなことも、一度やはり中間点検をして、整理をして、そしてこれから完成に向かってまでが一番金があるところですから、その場でこれとこれとこれだけはやりたいなというようにしなければいかんのかなというような、ちょっと反省もあるところです。

しかし予想外にできたという、所長のやはりお力もあるし、地元の皆さんの物すごい熱意もあるわけですし、というようなこともありますから、そういういいところも消さないように活力を上げながら、立体的にというようなところも配慮しなければいかんかなというふうに思っています。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 手をかけられるところはかけていくというのは、やはりベターだと当然私も思いますし、花なんかはもうことしから植えられるわけですね。それは

面積は問わず、大小は問わず、そういう仕掛けをぜひやってほしいなど。当然予算が絡むわけでありますので、その点につきましても市長、約束してくださいね。予算の多い少ないは別にしまして、少しはつけていくという、そういう方向でお願いしたいと。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 もちろん、予算ということもありますが、予算がつかなければできないというのではない場合もあることをちょっとご理解いただきたいのは、河井のあそここのちょうどフットパスのところ、桜を植えたのは地元の皆さんが先に植えたのですよ。あれが60本から270本になって、300本になってきたのですね。地元の皆さんを中心に、これやはりそこが民間活力というか、すごいところだなと思うのですが、そういう盛り上がりというか、そういうのも非常に大切なのではないかと。

そういう仕掛けづくりというかな、そういうふうにして協力する体制づくりというか、予算だけでやるということではなくて、やはり地域の盛り上がり、市民全体の盛り上がりで、あそこにいっぱい花、とにかくコミュニティセンターからずっと上まで桜がある程度あるようにしようよとなつて、何十本となつてきたら、これは文句なしに河井が今4年前から花見をしているように、地域の皆さんだけではなくて、豊田の皆さんなんか4月29日に集まってくるような仕掛けになつてきましたから、やはりそういった地元の、あるいは市民の全体の協力ということが大切かなというふうに思います。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 それぞれの地域を動かすというのは、非常に大事なことであつ

+

て、またそれがなければこれからの事業というのは展開できないのかなと、そう思っておりますし、その地域の皆さんを動かす方の一つに、やはり予算というの小さな声で予算というのもないと、動いてこない、私はそう認識しておりますので、あわせてお願いを申し上げていきたいなど、そのように思います。

今までスキー場の管理は平野のスキー場運営委員会というところで管理をされておると聞いておりますけれども、このコミュニティセンターについてはどのような体制で管理をしていくのかと、あと管理をしていただく場合にもし予算が伴うものがあれば、当然それが出てくると考えますので、その点について文化生涯学習課長にお願いをしたいと思っております。

○小関勝助委員長 梅津敏昭文化生涯学習課長。

○梅津敏昭文化生涯学習課長 道照寺平スキー場の運営につきましては、先ほど委員がおっしゃったように、地元の道照寺平スキー場運営協議会というのがございます、そちらの方に業務委託しております。そしてこの業務委託につきましては、1年を通じてスキー場の管理というようなことで、今現在もお願いしております、夏場は下刈りとかそれから草刈り、それからスキー場のオープンのための準備、それからオープンしてからはロープ塔の操作、それとか管理、そしてグレンデの圧雪作業などをお願いしております。

このたび、道照寺平コミュニティセンターが建設されたというようなことで、まだちょっと給水工事が終わっていないということと、それからあと進入路がまだ安全が確保できないというような状況にありますけれども、これが解決した時点で貸し出し

が始まるわけでありましてけれども、それについてはこれまでもヒュッテ、以前あったわけですがけれども、ヒュッテもスキー場運営委員会の方に委託しておりました。その関係もありまして、今度のコミュニティセンターについても、その運営委員会の方に業務をしていきたいというようなことに今考えておまして、過日運営委員会の会長さんとも、一応お話をしてきたというようなところでございます。

予算的なものにつきましては、今年度は前年度の当初予算と同じように、339万円というような予算を計上させていただいております。それで会長さんのお話の中でも、同じような中身で管理もやっていくというようなことで、お話をお願いしております。そのようなことから、委託料のその部分の増額はないというように考えておりますし、ただ新たに出てくるのが今後は浄化槽、そういうものが出てきますので、新たに浄化槽の委託料ということで9万3,000円、これがちょっと多くなるというような状況で、予算的にはそんなに増額になるというようなものではないというように考えております。

なおコミュニティセンターの施設の関係については、昨年12月26日に…。

(「あといい」の声あり)

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 スキー場の運営委員会には、スキー場の委託はしておると。私はそう聞いておりますので、確かに1年間通じてそれは草ぼうぼうでは困りますので、下刈りしたり、そういう管理は今まで受けていると。しかし新しいコミュニティセンターについては、そんなに簡単にはできないのではないかなと。それは管理運営委員会の人が言っているのではなくて、私はそ

う思っているのです。

と申しますのは、通年利用を考えているということは原則でしょう。そうした場合に、ではどなたがかぎを持っているとか、そういうもろもろを考えた場合に、なかなか利用度が上がってこないのではないかなと、私そこを一番心配しているのです。

せっかく建てたものを、ましては一番目黒市政の嫌な部分である箱物行政ができるわけだ。それを活かさないということであったならば、本当に寂しいのかなと私はそう思っておりまして、果たしてスキー場の管理運営委員会に委託しただけで生きてくるといふふうに私は正直言って考えておりません。何としても利用度を高めていくような管理体制をとっていただきたいと、そんなように思っておりますので、それはスキー場運営委員会とやりとりをしていただければいいと思いますけれども、やはり通年型利用ということをした場合には、原則ならば管理人を置いて、いつでも入れるような状況にしておくというのが、これ本当は大前提だと思います。

しかしながらそうも行かないということであるならば、少なくとも土日ぐらいは管理人を置いて、これはどういう体制であってもいいですから、ボランティアであってもいいでしょうし、あるいは地域の人の有志であってもいいと思いますけれども、そういう姿にしていけないと、あそこへいやしに来る、あるいは子供さんと来るといったときに、管理棟が全然錠がかかって入れないということであつたら、常に私は来ないと思いますよ。

やはりそこでいろいろなコミュニケーションがとられることによって、また行ってみたいとか、あるいはあそこはよかったよと、口コミでお客様が来るようになるの

ではないかなと。私は市民だけのものではなくて、やはり市外からのお客様ということも十分に考えられる要素があるのではないかなと、そんなふうに思います。

先ほど市長が申されたように、定点観測所も出ましたので、ちょっと体力に自信のある方は、ちょっと行ってみようかということになると思いますので、そこで休みをされるのならばすごくいいのかなと、そういうふうに思いますので、ただ委託をしてどこにかぎがあるかわからないような状態で市報程度に、「道照寺平コミュニティセンターは通年型にして開放します、ぜひ利用してください」そんな程度では私は生きてこないと、そう思います。仕掛けをしていかないダメではないかなと、そんなように思いますけれども。これは文化生涯学習課長でなく、市長とやりとりしますよ。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 おっしゃるとおりだな。私もやはり土日責任者がいるとあって開けてあるということは必要だろうね。最初来るかどうかは別にして。今までですと役所は担当課が生涯学習だと、そうすると公民館だと、公民館にかぎを置いておくと、土日いないのだな、今度は。それではこれはやはりうまく機能するとは、私も民間的発想から言うと無理だと思いますね。

たくさんは上げられないが、ボランティア程度かもしれないけれども、やはり地域の役に立ちたいというような人が、わずかなあれでやっていただけるなんという人がいた方が、絶対いいわけですから、そしてそこで自動販売機とか何とかもできるわけだし、使用料等も1日幾らと、わずかでも決めているわけですから、土日はそういう置く方向で、ここは教育長と話をさせていただいて教育長はわかっていただけと思

+

いますから、そうなるだろうと思いますね。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 本当に考えているとおりの答弁をいただいたので、全く後言うことないのですけれども、なぜここに至って私はこういうことを言いたいのかなと思ったのは、コミュニティセンターでなくて、本来ロッジというだけの姿だったら、そこまでは必要ないと思います。

しかしながら今回は1,100万円の給水事業をして整備するというので、本来ならばロッジだけだったらそういう大がかりな給水施設というのはほとんど要らなくて、簡易の給水施設で当然冬だけだから間に合うわけだね。今までだって間に合ってきたのだから。それを本格的な給水事業を行うということは、絶対に活かす必要があると、そういうふうに思ったものですから、そんな提案をした次第でございます。ぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

次の2番の福祉事業計画の中で、新しい老人福祉計画並びに介護保険事業計画の策定をしていくのだというような言葉が使われておりますけれども、この点についてどのような計画であるのか、福祉事務所長に答弁をいただきたいと思ひます。

○小関勝助委員長 宇津木正紀福祉事務所長。

○宇津木正紀福祉事務所長 老人福祉計画について、お答へ申し上げます。

平成18年度を初年度としまして、平成20年度を目標年度とする3カ年計画、第3期介護保険事業計画並びにこれと一体的に調和を保つ長井市老人保健福祉計画については、今回議会の常任委員会の方に提出したところでありますが、この老人福祉計画についてはすべての高齢者を対象としまして、保健福祉全般にわたる計画でございまして、介護保険事業計画につきましては、今後の

要介護者数の推計や、利用者の意向により、各種介護保険給付対象サービスの見込み量と、供給量の確保のための方策を定める計画でございます。介護サービスの需給、基盤整備の進捗状況、介護保険財政の状況を踏まえて、3カ年の保険料算定の基礎となるものでございます。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 大体わかりましたし、そうした状況の中で、高齢者事業について若干質問を申し上げたいと思ひます。

先ほど来さまざまな話の中で出ておったわけでありましてけれども、やはり今までの福祉行政の中で、特に高齢者対象事業というのは、非常に重点的に、今になってみれば過保護状態というような政策がとられてきたのではないかなと、私は率直に思っております。私もいよいよ満60を迎えましたので、そちらの近い年代になって、まだまだ高齢者に対する事業の予算とかそうしたものをふやしてもらいたいなというふうにはやはり思ひますよね。

そういうことで、同時にいわゆる子育て支援・育成にかかわるお金の配置、配分というものをこれからどうやっていくのかなということだと思いますけれども、それが昨今の議論されているところでございます。

私は高齢者事業、あるいはこちらは子育て支援・育成事業と、そういうものを二本立ての考え方というのはちょっとこれから無理が入るのではないかなと。一体となった高齢者対策事業、子育て事業と、これが一体となった姿になって予算の配分されている、あるいは事業が組まれているというスタイルになるのではないかなと、そんなふうには私に思ひます。ちょうどこれはある議員から教えてもらったのですが、一つの家族体だと、一般の家族の

中には孫がいるということは、必ずじいちゃん、ばあちゃんもいると。

そこの中の予算の配分であるから、お年寄りに厚くなれば子供の方は薄くなると、子供の方は厚くなればお年寄りが薄くなると、全体としてそこそこだなと、そういう方向に行くのではないかなというふうに教えてもらったわけで、ああこれはいい考えだなと思って、早速今利用させてもらっているのですけれども、そういうことで、長井市はミニデイ事業というものに取り組んでおるわけでございまして、市長は在任中に何とか50カ所までしたいなと、そんなふうに発言されておりました。現在33カ所ぐらいだそうでありますけれども、このことについての感想は、市長どのようにお考えでありますか、お願いします。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 私もおっしゃる意味は全く同感なのです。一体化というのは一緒。少しやはりシフトを、移すことはあっても、全体としてはこれは福祉は大事だということです。しかし今やはりやらなければならないところという意味では、少しシフトというか重点を移動しなければならない、というようなことはあり得ると思います。何しろとにかく入ってこないわけですから。少なくなるわけですから、収入が。かかるのはどんどんふえていくということも一つの懸念されるわけですから、そういった意味で一体の中でシフトを少し工夫していくという意味では、全くそのとおりだと思います。

ミニデイも大変長井としては元気なお年寄りをつくるという意味では、私はすばらしい事業だったと思います。もう33カ所、春になれば花見をずっとやるのだという人もいれば、踊りもあればいろいろ楽しみに

されて、ちょっとマンネリ化があるけれども、もうそうではなくなってきた、また少し楽しみになってきたなんていうところがありますよ。

しかしまだできていないところは支援をする方が大変なものだから、そういう方がいないとなかなかこれはできないですよ。だからそういった意味では健康課もいろいろとできればやはりもっとふやしたいと思っているわけですが、地元の皆さんとじっくり相談していたところだろうと思います。

敬老会なんかも非常に活発で、介護保険の世話にならずにPPKだと、「ぴんぴんころり」で行くんだと、こういう会長の言葉どおり、カラオケ大会やったり何をやったり、すごいですから、やはりそういった意味で皆さんの頑張りを少し応援していくと、ちょっぴりの予算でというか、そういうことは大切だというふうに思っています。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 そうしますと、今年度も今までどおりミニデイについては推進をしていくのだということでもよろしいでしょうね。はい。ぜひそのようにお願いを申し上げます。

次に敬老会等ということで、このことについては去年も市長とさわりの部分で少しやりとりをしたなというようなことを思い出しておるのでありますけれども、私は敬老会というものは全然否定するわけでないし、当然これからも続けてほしいなと、そんなふうに思っておるのですけれども、敬老会に対して行政としては580万円、大体4,400人くらいが対象で予算化しているわけでありまして、この事業がどれほど地域の負担になっているかということ、私は当局の方でいろいろ研究したことがないのかなと、そんなふうに今思っているわ

+

けで、しかも地域それぞれ負担が大きいところ、少ないところにさまざまなことで、そうした面についての行政指導というものも今までなされては、私はおらないというようなことで、敬老会のあり方を今一度研究していただけないかなと、私はそう思っております。

たまたま16年の参考資料なんかちょっとあったのですけれども、すごく地域の負担になっている地域と、それほどでもないということで、物すごくばらつきがあると。ある地域の例を出してみますと、行政の方からは1,300円、安いときは1,200円だったですね、一人当たりでいくと。そして例えば対象者が300人だと、参加する人が150人5割。そうした場合に今の敬老会のやり方をすれば、当然1,300円ではできませんので、地域の方々から負担をいただいていると、そうしたときに欠席者は5~600円の品物を上げて、そして地域の方々から1個600円とか700円の負担金をいただいて、その金は全部出席者が使ってしまうと。私はこれほど不平等な税金の使い方、地域のお金だってやはり私は税金だと思うのです。みんなの方々の志なわけです。意外と不平等だなと。

しかも76歳以上になっているということは、もうそこへ行ける人はそれだけで幸せなのです。健康なのですから。健康な人にますます支援をしていくということは、どうということかなと、それが真の福祉行政なのかなと、私はずっと思ってきましたので、その点について市長の見解をお聞きしたいし、またこの前は市長は私も選挙をしなければならぬので、やはり敬老会の方々大事にしなければならぬのですよという答えだったですよ。それは私も同じ状態であって、今度市長はそういうことではなくなつたでしょう。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 私は町田委員、1年先輩ですから大変卓見を持っていらっしゃる。本音はいや選挙のことばかりではありませんよ。私は私の母親82歳なのですが、ほかの友達のなんか2泊3日を断って敬老会に行きたいというか、そして常日ごろお茶飲みできない人とあそこに行く与会えるというので、楽しみにしている人、いるのですよこれは。

豊田は公民館だな。それから西根も公民館ですね。それから伊佐沢も公民館だ。それから清水町さんも今公民館になっていらっしゃる。施設を使っているのは平野と致芳だけれども、致芳もふえてしまってあの大広間ではちょっと3年ぐらいで、来年考えようという話なのだけ。

確かに1,300円も考えてみれば安いですよ。しかも施設を使ったら本当にだんだんだんだん声は小さくなるし、そういうふうになってくるけれども、やはり実際は85歳ぐらいまでですよ。その10年間の皆さんが出ていらっしゃるって、大体40%から50%の方が出ていらっしゃる。西根なんかは90何歳の方もいらっしゃるけれどもね。そうすると実際の単価は1,300円ではなくなって、来られない方は少し下がるわけだから、2,000円ぐらいなのをもらって、折箱と酒と公民館、あるいは小学校、中学校の体育館だったら、やはりあれは私はいいものだなと。

それでそこにおいでになって、自分の健康も確認し、車なんかでなかなか行かなくなつたから、同じ地区内の同級生なんかと会ったりなんなりするということでは、私は喜んでいらっしゃる方が随分多いなど、さらに孫の皆さんがアトラクションなんかするから。

この1,300円は、また元の1,500円に戻そうかとも思ったけれども、選挙のためではありませんよ。それはそういう分けをすれば、単価は出席者の皆さんに上がるわけだから、それにプラスアルファ地区がしているらっしゃるとすれば、その地区の方が、私はやはり珍しい方ではないかなと、市内では。

その全体の予算の中でおやりになっているのではないかなという感じがしますから、その地区でさらに上乘せなされるとすれば、それはそれなりのお考えなのでしょうが、あるいは地区会計の中から少し援助しているとか、そういうことは多少あるのかもしれませんが、新たに集めているというのは少ないのではないかなと。

僕はやはり元気なお年寄りに敬意を表して、年に1度、敬老会はできれば私であらうとなかろうと、形を変えてもやっていただきたいものだというのが、私は本音です。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 敬老会は大変結構なことで、私も76歳まで生きることができれば、はまりたいなど、年齢は上げてもらいたくないなど今思っているわけで、ただ反省とかいろいろなことが書かれています。その地区、地区の。やはり地区の持ち出しが多くて、本当にもう限界ですと。そういう声が物すごく強いわけで、もっと金のかからない敬老会を私は研究した方がいいのではないかなと、そこを市長とやりとりしたいなど思ったのですよ。

ということは、敬老会は1年に1回1日で、例えば行政の方の持ち出しが580万円でしょう。それが4,400人行っているわけだよ。このミニデイの方は1年じゅうさまざまな集まりをして700万円、これは4分の3

が国、県から来ておりますので、非常に効率のいい高齢者対策事業だと私は思うのね。こういうのをやはりセットにして、ミニデイに来ていただける人も当然敬老会へ来ていただけるわけでありますので、地域の負担のかけないで済むような敬老会のあり方を、私は研究してほしいなど、そのように思いますので、これをテーマにしたわけです。この点について市長、お願いします。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 やはりお年寄りの方の本音を聞くと、そんなごちそうなんか要らないと。酒もたくさんなんか要らないと。量はほんのり気分がよくなるだけでいい。ごちそうだって立派な折り詰めとあって、そんな要らないという方、結構多いですよ。

それから先輩だからといって地区長さんたちが本人たちもそうかな、奥さん方も動員して、芋煮会の芋汁を出しているなんていうのは、そうなってくるとこれ大変なのだよね、200人、300人出さなきゃいけない、動員しなければいけない、もう材料買ってきてつくらなければいけない、味も何とかしなければいけない、こういう負担になるようなことは今度はなさらないで、それからごちそうもあれも、やはり工夫をその地区でされた方がいいのかなと、この予算の範囲内というような私は気がしますし、検討するとそういうことについて。

地区長会さん、実際やっているのは地区長会さんで、あと致芳で言えば婦人会の方とか、いろいろな皆さんが協力しておられるわけだから、そういう皆さんとひとつ大体こんなものの予算の中で、もっと簡素で効率的な楽しい敬老会にするためにどうするかということ、ぜひ検討しろと言われてれば、私は検討した方がいいと、検討しなければいけないのかなというふうに思いま

+

す。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 検討していただいて、少しでも前進を期待をしたいと思います。検討して元のおりですという行政用語は余り結構ではありませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に移りたいと思います。本市の介護保険事業というか、その方向でありますけれども、今回は第3期ということで第1期が12年から始まりまして、3,000円弱から始まった記憶がございます。そして第2期が現在でありまして、3,400何がし、そして18年から4,200円ですか、300円ぐらいですね、そういうふうにならなくて上がってきているわけで、やはり利用者が多くなれば当然上がってくる。そしてサービスの程度が充実してくればこれも当然上がってくると、そういうことになるわけでありまして、そして受益者負担が原則であると。

しかしながら先ほど市長も申されていたとおり、3億円先一般会計から出ていることも事実でありまして、12.5%は必ず持ち出しをしなければならないという決まりもあるそうです。そういう中で、では3年後またどうなるのかなということで、どんどんどんどんそういうことエスカレートして、果たしていいのかなということも考えられるわけでありまして、長井市の介護の方向、いわゆる在宅介護とそれから施設介護、当然あるわけで、その配分、重点シフトです。

それをどういう方向に長井市の場合に行こうとしているのか。両方を満足しようとしているのか、あるいは在宅の方に重きを置きますよとか、あるいは施設型の方に重きを置くとか、そういうことが私たちの方には全然見えてきておりませんので、そこ

ら辺のところを福祉事務所長にお聞きをします。

○小関勝助委員長 宇津木正紀福祉事務所長。

○宇津木正紀福祉事務所長 町田委員のこれからの介護保険の方向性ということで、どちらに重きを置くのかというご質問でございますが、施設につきましては、重度者が中心となるという国の方針に基づきまして、長井市でも同様の考え方でございます。介護度が重い方が多く入られる施設ということを目指していきたいと、1点目はそのように考えています。

2点目につきましては、在宅の方については、これ以上介護度が上がらないように予防重視、予防事業を充実させまして、予防の方を充実させてまいりたいというふうなことで、その方に力を入れて介護保険がこれ以上大きくならないように、ご負担がふえないように、1号被保険者、2号被保険者、半分は税金でございますので、そちらの方の負担がふえないような、いわゆる持続可能な制度としていかなければならないというふうな方向性で考えておるところでございます。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 先般の山新の中にも県内市町村の介護保険料月額平均20%アップというようなことが出ておったわけで、同じ保険料でも先ほど藤原委員も質問があったように、それぞれの市町村で大分ばらつきがあるわけだね。やはり1,000円以上のばらつきがあると、1,000円のばらつきがあるということは、やはり介護のサービスの度合いによるのではないかなと、そんなように思いますし、私は長井の介護保険料が高いとか安いとかということではないと思いますので、ベストの状態を進んでいただきたいなと、そんなふうにあります

し、県内で一番になったから悪いとかいいとかということではなくて、県で1位になるのはちょっと体裁悪いから3番目にしようかなとか、そういうことでは決してないようにだけはしてほしいなど、それだけはお願ひしておきます。

今回はどうなのですか、福祉事務所長。

○小関勝助委員長 宇津木正紀福祉事務所長。

○宇津木正紀福祉事務所長 第3期の計画についてでございますが、平成18年度から20年度までの3カ年のサービス料と介護費用を推計しまして、あと1号被保険者の保険料が19%ということで改定になりました。18%から19%ということで。そちらの伸び率とか、1号被保険者の方の伸び率とか算定しまして、客観的に保険料を算定したところでございます。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 よろしくお願ひ申し上げます。

次に介護保険事業の広域行政への移行はないのかというようなことについてでありますけれども、この介護保険というのは、やはり自治体ごとに山形県の場合はなされておるようでありますし、全国的に見てどのような状況になっているのか、あるいは広域行政でやっているところはあるのか、その点について福祉事務所長にお聞きします。

○小関勝助委員長 宇津木正紀福祉事務所長。

○宇津木正紀福祉事務所長 私どもの知り得る情報では、全国で68団体がございます。この後に合併したかどうかちょっと詳しく調べていないのですが、調べたデータでは68カ所ございまして、山形県にはないのですが、東北では岩手県に4カ所ございまして、一番多いところ、島根県で8カ所ということでございます。名前もいろいろありまし

て、北アルプス広域連合などというとか、白山麓広域連合とか、そういう名前で連合体を組んでいるところがあるようでございます。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 やはり各自治体がサービスの量・質についていろいろ違いますので、なかなか広域行政という方向には進めないのかなと思いますけれども、しかしながら長井の場合今介護保険事業に恐らく職員が5~6名取られると思うのです。それがほかの自治体も当然同じようなことをやっているわけで、進む方向がそれぞれの自治体が同じであるというようなことであるならば、私はそういう研究をしていけないのかなと、そんなふうに思います。

特に広域合併を考えたときに、この介護保険事業の広域化を一つのたたき台として、その方向に進めていけるといふ、私はチャンスも広がってくるのではないかなと、そんなふうに思っておるわけで、一つその参考資料があるのですけれども、小国には別としまして、飯豊、長井、白鷹というのは、在宅サービスと施設サービスというのがちょうど中間あたりになって、この辺に固まっているのです。また川西、南陽、米沢、高島ですか、これももの見事に同じようなところがあるのですよ。これ見てびっくりしたのですけれども、小国さんだけが施設サービスに重点を置いて在宅が少し利用が低いのかなと、そんなことで、本当に方向が一緒なのですね。

あとほかの村山とか東根とかそういうところはもうとんでもなく35市町村ばらばらになっているのですけれども、小国を除く西置賜とあと3市4町ですか、それがもの見事に1カ所に固まっていると、こういうことになっているわけで、この辺も考え

+

る余地があるのではないかなと私は今思っておるのですけれども、市長この点についていかがですか。

○小関勝助委員長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 率直に私の意見を申し上げますと、恐らく島根は相当合併したと思います。この68の中で。やはり合併するのが一番早いのではないかと、それがこういうものをいずれ一緒になる。そう簡単に1年、2年目は、例えば酒田市でも八幡が少し高いとか低いとかとやっていますから、多少ありますが、合併すればいずれ一緒にしなければいけないわけで、こういうのも一つのあれで、やはり3市5町でだめならば2市2町か1市2町か、いろいろなところがあると思いますが、合併する方が私はこちらのものが進んでいくのではないかというふうに思います。

○小関勝助委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 いろいろと質問させていただきました。できるところから着手をしていただければ幸いです。ありがとうございます。

散 会

○小関勝助委員長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は17日、午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後4時56分 散会